

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ～ 「復興元年」を教育振興運動で！～

---

< 目次 >

- 1 【運動推進】教育振興運動の進め方（普代村・雫石町の実践事例より）
- 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
- 3 【編集後記】あつしのひとりごと

★ 教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」を聴くことができます。

ここをクリック⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

---

- 1 【運動推進】教育振興運動の進め方（普代村・雫石町の実践事例より）

「活動に関わる大人が限られるなど、地域全体の活動となっていない」、「地域の教育課題などを話し合う場を持ちにくい」、「運動の進め方がわからず、各実践組織に対する指導助言ができない」の3点は、過去5年間、教育振興運動を推進するうえでの課題として常に上位であげられる課題です。

5月18日（金）に開催された「教育振興運動市町村担当者等研修会」は、『みんなで教振！10か年プロジェクト』が何を解決するために始まり、どのような方法が提案されてきたのかを確認し、さらにこの上位3点の課題を解決するためにはどうしたらよいかを協議する機会として開催しました。

★『みんなで教振！10か年プロジェクト』等の説明資料

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24sityousontantouken.pdf>

また、研修会では、「活動者が限定される」「話し合う場を持ってない」「進め方がわからない」を改善するために、普代村と雫石町に実践を紹介していただきました。

【実践事例1】『組織の再編とPDCAサイクルによる推進』（普代村）

平成23年度の小学校統合（3校→1校）にともない実践組織の再編が必要となり、従来の小学校単位（3校3実践区）から中学校単位（1校5実践区）の組織としました。その際、5者の役割を明確にするとともに、各実践区に村教育委員会職員と地区担当の先生、中学生を構成員に入れ、活動や話し合い等をおこなっています。

★普代村の実践事例

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24sinkoujireifudai.pdf>

**【実践事例2】『実態把握と評価の在り方～広報の有効な活用～』（雫石町）**  
教育振興運動を1度中止した経緯がある雫石町ですが、“まちづくり”に教育振興運動は不可欠であると、平成18～21年の4カ年で「教育振興運動再生プラン」に取り組み、平成22年度から教育振興運動を再開しています。

平成22～25年度の4カ年を「雫石町教育振興運動第一次計画」として計画的に運動を推進し、町民の意識高揚・啓発をはかるために広報を有効に活用しています。

★雫石町の実践事例

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24sinkoujireisizukuisi.pdf>

実践事例発表のコーディネーターを務めていただいた松尾弘一先生からは、次の4点について、今後の方向性を示していただきました。

(1) 地域住民・保護者に課題意識を持たせる

意識調査・実態調査・アンケートなどをおこない、住民・保護者の生の声を集めること。課題意識（どうにかしなければ）が運動（やろう）の始まりである。

(2) 組織は、課題解決のためにある

読書推進が課題なのであれば、図書館職員や読書ボランティアを組織の構成員に入れる。花いっぱい運動を行うのであれば、農協職員や花づくり農家を構成員に入れる・・・など、解決すべき課題に応じた組織であることが大切である。毎年、同じ構成員である必要はない。

また、5者の全員に同じ活動を求めるのではなく、できることに参加してもらおうなど、いろんな活動への参加の仕方があっていい。

(3) 5者とは、子どもにも責任があるということ

文部科学省の提唱は「学校・家庭・地域の連携」であるが、岩手県はそこに「子ども自身」と「行政（教育委員会）」を入れている。教育課題を解決するにあたり、当事者である子ども自身にも考えさせ、責任を持たせる必要がある。学校の児童会・生徒会や地域の子どもの会の活動も、教育振興運動の一環として位置付けることが大切である。

(4) 「いわての復興教育」に取り組む必要がある

東日本大震災津波の教訓を踏まえ、とりわけ命に関わる「防災教育」、「命を大切にす教育」に取り組む必要がある。復興教育＝被災地支援・交流事業ではなく、また沿岸地域だけの課題ではなく、地域に応じた防災意識を高める取組をおこなう必要がある。

24年度の教育振興運動の推進方針にも、従来の「学力向上」「健全育成」「健康安全」の知徳体の3観点に「復興教育」の観点を加えることを明記しています。大震災津波発災時の避難対応、体育館等での避難所での生活を振り返った時、「復興教育」は、学校を核にしながらも地域総ぐるみで取り組む必要があると考えますが、いかがでしょうか？

---

## 2【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) 市町村担当者等研修会には、44名の市町村担当者の皆さんや、27名の県社会教育主事・県指導主事等の皆さんが集まって、とても良い研修会になったようよ。

(振ちゃん) 清心さんのミニ・コンサートでイメージソング「Hand In Hand」を聴いていただくこともできたしね。

(教ちゃん) 清心さんと言えば、5月18日(金)は北厨川小学校でミニ・コンサートを行ってきたのよ。市町村や学校からの依頼に応じて開催するミニ・コンサートの第1回目だったの。

(振ちゃん) 19日(土)の岩手日報と盛岡タイムスに載ってたよね。「清心さんに来てほしい」と教育事務所に申し込むと、来てくれるんだ。

(教ちゃん) そうなのよ。この後、5月30日(水)は矢巾町の教育振興運動推進委員会総会に、6月7日(木)は釜石市立唐丹小学校の遠足に、6月10日(日)は岩泉町の森の日事業に、6月24日(日)に、葛巻町ミニ・サッカー大会に・・・と市町村や学校からの依頼が来ているの。

(振ちゃん) 北厨川小学校での清心さんのコンサートは、どうだったの？

(教ちゃん) 手拍子で盛り上がったり、一緒に手話で歌ったり、アンコールもあって、PTAや先生方も含めて、約500人の皆さんに楽しんでいただけたわ。

(振ちゃん) イメージソングのカップリング曲「ココロの風」を歌う時、清心さんは手話で歌うもんね。子どもたちに“手話という言葉”があることを知ってもらい、福祉に関心を持たせる学習にもなるよね。

(教ちゃん) 前に小学校の先生から「Hand In Hand」の楽譜の有無の問い合わせ

せがあったけど、合唱バージョンを作成する途中の現段階の楽譜と一緒に「ココロの風」手話歌詞カードをお届けします。既に学校にお届けしているCDに合わせて、手話で歌ってみてくださいね。

(振ちゃん) ♪ 風がわたしのココロをなでる そんな頑張らなくてもいい  
んだよ 悲しい時は思い切り泣いて 風がその涙を拭うから ♪  
(教ちゃん) でも、今日の宿題は頑張ろうね。振ちゃん！  
(振ちゃん) ガッビーン！

★ 「Hand In Hand」の楽譜

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24handinhandgassyou.pdf>

★ 「ココロの風」手話歌詞カード

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24kokoronokazesyuwa.pdf>

---

### 3 【編集後記】あつしのひとりごと

「市町村担当者等研修会」の特集がボリュームたっぷりであったことから“あつしのひとりごと”はお休みです。昨日の“金環日食”をご覧になったでしょうか？この自然現象も、親子の会話で学習への意欲付けになりますよね。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

感想・意見・要望はこちら。 ⇒ [21kyoushin@gmail.com](mailto:21kyoushin@gmail.com)

⇒ 第70号は、6月12日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～68号）はこちら。

⇒ [http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga\\_backnumber.html](http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga_backnumber.html)

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenjirei.html>

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/shoukaijirei.html>

～～～配信元～～～

\*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～